

支給対象者修了報告書(短期派遣学生用)

標記について、下記のとおり報告します。

記

○基本情報

短期派遣学生氏名	中本天望	在籍大学等名	京都大学
派遣先大学等名	西安交通大学		派遣先の大学等での 在籍課程・身分
奨学金支給期間	平成 26 年 9 月 ~ 平成 26 年 9 月	派遣先国・地域名	中国

○報告内容

学習成果について(自由記述)
今回の派遣に参加する前までは、今後留学しようとして計画するどころか、そう思うこともありませんでした。しかし、今回中国を訪れてみると、出会う学生のほとんどが留学経験を持っている、あるいは留学する予定だということを知り驚きました。今までは、留学というのは一部の人がするものだと思っていましたが、実はそうではなく、たとえ留学経験があっても珍しいものではないものだとことに気が付きました。それに触発されて、わたしも今後留学するべきなのではないかと現在考えています。また、現地の学生の向学心の高さを垣間見る機会が度々あり、これを見て、わたしも悠長に大学生活を送っているようではいけないと思うようになりました。 国際理解に関して思ったことは、日本のものさしで相手を理解しようとしてはいけないということです。今回の派遣の中でも、無意識のうちにあらゆることを日本と比べてしまいましたが、現地で滞在するにつれて、ただ日本的なものさしだけで相手を評価するのではなくして、相手の立場にも立ってみてそれがどう映るのかも考えないと、相手を理解したことにはならないと思うようになりました。
海外での経験について(自由記述)
科学技術が発達したおかげで、インターネットやテレビなどを通して、海外に行かなくても、国外の多くのことをリアルタイムで知ることができる時代となりました。しかし、今回の派遣から帰ってきて気付いたことは、それでも、実際に現地で見聞きすると、日本で現地のことを知ることでは差があるということでした。たとえば、日中関係の悪化が近年よく報じられるようになりました。それを見て、行く前までは、現地の大学の外で日本語を話すのは慎んだほうがよいのではないかと考えておりました。しかし、実際に行ってみると、日本人だからということで現地の住民に責められるようなことは無く、むしろ友好的に接してくれたように感じました。今となっては、たとえそれぞれの国が違ったとしても、それ以前に人として皆同じだから、直接会って話せばお互い分かり合えるのではないかとも思えるようになってきたと思います。
派遣プログラムの内容(自由記述)
今回のプログラムでは、中国語における様々な表現の学習をした他、現在の中国を表す様々な事象を見て考えると言う授業がひとつ。そして、日中文化交流史と題して、日中の際にどのような交流があったかを学び、そしてその痕跡が西安のどこに見られるのかを学ぶ授業がありました。たとえば、遣唐使として中国にやってきた空海や阿倍仲麻呂が中国でどのように暮らし、そしてそれを記念する碑が、西安にある青龍寺や興慶宮に見られるというようなことです。この他、西安に兵馬俑があることに関連して、秦朝がどのような王朝であったかを学ぶ授業、書道の授業、そしてわたしたちが中学・高校時代に学んだ漢詩を、中国語でどのように詠み親しむのかも学びました。
今後の進路への影響について(自由記述)
このたび派遣されて思ったことは、中国語のほかに英語も含めて、言語をもっと勉強しなければならないということです。もっと話せるようになれば、より深いコミュニケーションをとることができるようになる上、より豊かな人間関係を構築できるのではないかと現地で改めて認識したからです。それと今までは、将来海外で学ぶ、あるいは働くなどというのは、あまり考えておきませんでした。しかし、派遣から帰ってきた今は、もし機会に恵まれれば、ぜひ海外で生活したい、そのような進路を選びたいと思うようになりました。
その他(自由記述)
海外での生活は、おそらく日本と違うところがたくさんあって、なれないところが出てくるように思います。今回の派遣でも、なれないところが少しありました。しかし、一方でもう一つ感じたことが、たとえなれないところがあったとしても、最後はいろいろとやっているうちに何とかなるものなのではないかということです。また、何か困ったことに遭遇したとしても、きっと誰か助けてくれるだろうとも思うようになりました。派遣前よりも物事が楽観視できるようになった感じがします。

○学生署名欄: